

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)LEN-SR	階数	地下1階地上1階
建設地	愛知県長久手市城屋敷1104番、1105番、1106番	構造	S造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	20人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,470時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年5月 予定	評価の実施日	2021年8月3日
敷地面積	3,077 m ²	作成者	内田 幹
建築面積	1,821 m ²	確認日	2021年8月4日
延床面積	2,023 m ²	確認者	藤井 篤



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	184 (kg-CO ₂ /年・m ²)	100%
②建築物の取組み	138	99%
③上記+②以外の	46	99%
④上記+	0	99%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

音環境	4.4
温熱環境	2.4
光・視環境	3.0
空気質環境	3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

機能性	3.1
耐用性	2.9
対応性	3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.0

生物環境	1.0
まちなみ	5.0
地域性	2.5

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	2.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

水資源	3.4
非再生材料の	2.9
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

地球温暖化	3.0
地域環境	2.5
周辺環境	3.0

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>19.4 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	19.4 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	19.4 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準	重点項目	評価点	評価点	重み係数	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		重み係数	全体
	重点項目					評価点	評価点	重み係数	重み係数		
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル			騒音レベル≤50	3.0	4.0	0.40			3.0	-	3.1
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能			T-2以上	-	5.0	1.00			3.0	-	4.4
2 界壁遮音性能				-	3.0	-			3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	-			3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-			3.0	-	
1.3 吸音											
			二面に吸音材を使用	-	4.0	0.20			3.0	-	
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温				3.0	3.0	0.50			3.0	-	2.4
2 外皮性能				3.0	1.0	0.17			3.0	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.33			-	-	
2.2 湿度制御											
				3.0	1.0	0.20			3.0	-	
2.3 空調方式											
				3.0	3.0	0.30			3.0	-	
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率				3.0	3.0	-			3.0	-	3.0
2 方位別開口				-	-	-			3.0	-	
3 昼光利用設備				3.0	3.0	1.00			3.0	-	
3.2 グレア対策											
1 昼光制御				5.0	3.0	-			3.0	-	
3.3 照度											
				3.0	3.0	-			3.0	-	
3.4 照明制御											
				3.0	3.0	0.50			3.0	-	
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆を全面的に採用	0.5	4.0	0.50			-	-	3.5
3.0				3.0	4.0	1.00			3.0	-	
4.2 換気											
1 換気量				3.0	3.0	0.50			3.0	-	
2 自然換気性能				3.0	3.0	-			3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.50			3.0	-	
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視				0.2	3.0	0.20			-	-	
3.0				3.0	3.0	0.50			-	-	
2 喫煙の制御				3.0	3.0	0.50			-	-	
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性				0.4	3.1	0.40			-	-	3.1
2 高度情報通信設備対応				0.4	3.0	0.40			-	-	
3.0				3.0	3.0	-			3.0	-	
3.0				3.0	3.0	-			3.0	-	
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)			ジョールームの天井高さ4.2m	0.3	3.3	0.30			-	-	
3.0				3.0	5.0	0.33			3.0	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	2.0	0.33			-	-	
3 内装計画				3.0	3.0	0.33			-	-	
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計				0.3	3.0	0.30			-	-	
3.0				3.0	3.0	0.50			-	-	
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50			-	-	
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.3	2.9	0.31			-	-	2.9
0.4				0.4	3.0	0.48			-	-	
3.0				3.0	3.0	0.80			-	-	
3.0				3.0	3.0	0.20			-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数				0.3	2.9	0.33			-	-	
-				-	3.0	0.23			-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		-	2.0	0.23			-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09			-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08			-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	4.0	0.15			-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23			-	-	
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備				0.1	2.8	0.19			-	-	
3.0				3.0	3.0	0.20			-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20			-	-	
3.0				3.0	3.0	0.20			-	-	
3 電気設備				3.0	3.0	0.20			-	-	
4 機械・配管支持方法		②		3.0	3.0	0.20			-	-	
3.0				3.0	3.0	0.20			-	-	
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20			-	-	

3 対応性・更新性			0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	②	3.0	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	5.0	0.40	-	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.75	3.0	5.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.99	3.0	2.0	0.30	-	-	2.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.9	0.63	-	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	3.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.0	0.10
② 資源の有効活用			2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:19.4%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	音環境の性能を重視した。
Q1 室内環境	騒音レベル ≤ 50 、開口部遮音性能T-2とし、壁、天井の二面に吸音材を使用することで、音環境性能の向上を図り、建材はF☆☆☆☆を全面的に採用することで化学汚染物質の影響を抑制した。
Q2 サービス性能	ショールームの天井高4.2m、階高5.3mとすることで、高い開放性のある空間とした。
Q3 室外環境(敷地内)	行政の指定する景観基準に適合している。
LR1 エネルギー	BPI=0.75とする。
LR2 資源・マテリアル	既存の擁壁を再利用している。
LR3 敷地外環境	なるべく敷地外環境に悪い影響がないようにしている。
その他	